

平成30年7月8日(日)

老球の細道424号

徒然なるままに、そこはかとなく思う

会津バスケットボール協会 室井 富仁

この2週間大学の授業でふだん欠席の少ないクラスが急に欠席者が増加した。理由をたずねると、サッカーW杯の深夜放送を見ていて起きられなかったということだった。ふだんサッカーとは縁もゆかりもなかった学生たちがこの熱狂である。今はビデオ録画もあるのに。それくらいサッカーW杯は国民を熱狂させている。

この狂騒も日本が敗退したために、これからは少しは落ち着くだろうか。ふだんJリーグサッカーのゲームなんか見ない私でさえ毎日観戦しにわか評論家になっている。大会前から監督の交代や親善試合などでの敗北などで、決勝トーナメントは無理だろうと思われるが見事目標の決勝トーナメント進出を成し遂げた。監督の交代や周囲からのパッシングによってチームがよりいっそう結束したからか。まさにピンチがチャンス。チームスポーツにとってチームワークはチームケミストリーを起こす最も重要な要素である。

予選リーグ突破における「負け試合作戦」は総論賛成、各論反対である。目標を決勝トーナメント進出と考えれば、3試合の色々な要素が目標達成に影響する。イエローカードの数が左右するならあの作戦もありなのだろう。ポーランドとのゲームだけを考えれば、スポーツの本質からはずれるゲームだったのではないだろうか。スポーツは、勝つことを究極目標とする。目の前の相手に勝つことを放棄してしまったら、それはもはやスポーツのゲームとはいえない。今後色々な所で議論のまとなるだろう。

決勝トーナメントは勝てないと思っていた。ところが、ゲームが始まったら予想に反して日本の勝利の流れになった。この時私は「まずい！これでベスト8進出を果たされるとバスケットボールの人気にますます差がついてしまう」と狭量の自分が出現。バスケットボール命の私としては、他の競技にこれ以上「夕食の話題」「飲み屋の話題」「職場の挨拶」になってほしくない。これからはバスケットボールが下剋上にならなければならない。

朝日新聞の人生相談によると、成功している人を見て、「ケッ、チクショー、負ければいいのに」と思う人は「普通の人」。成功した人を祝福できるのは「良い人」。「人の成功を祝う暇があるなら自分の仕事ががんばれ」と突っ込む人は「冷たい人」。成功した人を引きずりおろすために、ネットなどで悪口を書いたりする人は「迷惑な人」「悪い人」だそうである。願わくば、今後は「良い人」を目指し人間修養しなければならないだろう。

ところで、日本バスケットボールも来年の中国で開催されるワールドカップ出場に向けて崖っぷちの予選を戦っている。今夏の高校インターハイ九州大会で起こった延岡学園のセネガル人留学生による審判への暴行事件という前代未聞の不祥事で暗くなっていたバスケットボール界に先日明るいビッグニュースがあった。

1次予選全敗の日本代表が格上のオーストラリアを破り、その流れで前回負けたチャイニーズ台北に圧勝した。帰化したファジーカスと八村塁の加入で劇的にチーム力がアップした。上手な選手を連れてくれば国際大会も勝てるのか。素直には喜べないが、何はともあれ来年の中国開催のワールドカップ(世界選手権大会から名称変更・サッカーに対抗か?)に出場できなければ東京五輪もない。女子やアンダーカテゴリーが世界で上位に頑張っている、バスケットボール人気は男子フル代表の競技力にかかっている。